



お彼岸でお花いっぱいの永代供養墓

手をつなぐとも

等友

S 60・10・1生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉創

平成30年4月
第106号
責任編集
朝倉 翔

往生は、なにごとにもなにごとにも、

凡夫のはからいならず、

如来の御ちかいに、まかせまいらせたれ

ばこそ、他力にてはそうらえ。

ようようにはからいおうてそうろうらん、

おかしくそうろう。

往生ということは、何事においても、私たち凡夫の思いはからいではなく、阿弥陀如来のお誓い的一切をおまかせするからこそ、他力というのであります。
それぞれの思いはからいで往生できるとかできないなどと考えること自体、おかしいことであります。

「毎日法語 第3集 声に出して味わう教え」

東京教区教化委員会 広報出版部

住職から一言

お彼岸が過ぎ、ほっと一息つける時期を過ぎしております。

みなさまお花見は行かれましたでしょうか？花粉症でそれどころでない！という方もいらっしゃるかもしれませんね。

先日のお彼岸法要でもお話しましたが、同じ事柄でも人によっては、環境によっては、時代によってはまるで異なるものになります。美味しい料理ひとつにしても、おなか为空いているときにはご馳走ですが、満腹のときには見たくもなくなるものですよね。お釈迦さまはこういったことを「因縁生起」（縁起）として教えてくださいました。この続きはまた次号にでもお載せいたしますので、ぜひご覧ください。

さて前号にも少し紹介しましたが、ペットのお墓が完成いたしました！

以前からペットをお飼いの方に、一緒の場所でお参りしたいという要望を頂いておりまして、ようやく完成となりました。石屋さんにお墓のデザインを何度も作り直してもらい、納得のできる、みなさんに喜んでいただけるお墓が出来たのではないかと自負しております。

詳しいことは別紙にあります。お気軽にご見学ください。

また五月には真宗・仏教の教えをわかりやすくお話する「いのちのふれあいゼミナール」が開催されます。今回は僕が大好きな先生のお一人をお招きしてお話いただくので、今から楽しみなんです。よろしければ皆様もお話を聞きにお越しください。決して損はさせませんので！

行事報告

◎報恩講

真宗門徒にとっていちばん大切な行事、報恩講を昨年十月にお勤めいたしました。今回は等覚寺でも初めて先生をお招きしてご法話をいただきました。そこで今回は先生のご法話をあえて話し言葉そのままです。披露させていただきます。お招きしたのは、東京都中野区の高徳寺ご住職新井義雄先生です。



新井義雄先生

今ご紹介をいただきました、中野区の高徳寺というお寺をおあずかりしています、新井義雄と申します。いろんなご縁でこの等覚寺さんとお付き合いをされていると思うんですね。大切な方を亡くされたご縁とか。代々のお寺さんとお付き合いされているとか。いろんなご縁ですけども、そのご縁っていうのは目に見えないものですね。こういうのをおかげさんって言うんです。例えば今朝起きて、高熱が出ていたら。または台風が来ちゃって大荒れで交通機関も麻痺したら今ここに座っていることができません。今ここに皆さまいろんなお支度をして、そしていろんな所から来て今座っているっていうのはそのことを邪魔するご縁がなくて、ここにお参りに来るといいうご縁が全て整ったってことです。陰っていう字に「お」と「さま」を付けるわけですね。陰なるはたらき。空気とか水

とか今日のご飯とか、着物とか作ってくれた方とか。いろんなものが陰となって働いて今私となっているっていうのがおかげさんですね。そういう意味では本当にこの報恩講も先ほどの御俗姓御文に書かれているように、親鸞聖人の三十三回忌のご法事を期にずっと七百五十回忌以上毎年法事をされてるんです。親鸞聖人のご法事ですからね、報恩講。そして御俗姓御文の中には『聖人のご恩を報謝しようとする志のない者は全く枯れ木や岩石のようなもので』って書いてありますね。枯れ木や岩石、今日報恩講にお参りに来れなかった人は枯れ木や岩石だっていうことですね。激しい言い方ですよ、『枯れ木か岩石のよう』って、もう人間じゃないんですから。報恩講にお参り来ない人は人間じゃないって言ってるわけです。なぜでしょう。皆さん親鸞聖人ってご存じですか。会ったことありますか。会ったことない。私もないです。顔も

見たこともないし、しゃべったこともない。遺産も遺してくれたわけでもないし。自分の先祖でもない人の法事を毎年全国的にどの真宗のお寺でも七百五十年以上もやってるんですよ。これどういうことですか。ご自分のお家のご両親亡くされてる方はご両親とかご兄弟とかお子さんとかいろんな方の法事とか。あとおじいちゃん、おばあちゃんとか。ご法事されてますけど、ひいおじいちゃんとか、ひいおばあちゃんとか、ひいひいおじいちゃんのお法事はなかなかしないですよ。

親鸞さんの法事っていうのは、本当の教えというのを伝えてくれたそのご恩に報いる集まりで報恩講って言うんですね。親鸞聖人がお亡くなりになってお浄土に還っていかれたのは千二百六十二年の十一月二十八日でした。九十歳。すごいですね、八百年ぐらい前に九十歳っていうのはあり得ないでしょ。その聖人が二十八日に亡くなったので、初め

は縁のある人で二十八日様と呼ばれた毎月二十八日に親鸞聖人のご遺徳を縁に集まって仏法を聞くというお講がありました。今は本山では十一月の二十一日から二十八日の一週間をかけて報恩講が勤まります。全国からご門徒の方々が集まってお参りされます。高德寺や、この等覚寺さんみたいな末寺はその一週間をずらしてお勤めするんです。重なると本山にお参りに行けないですからね。

今日目が覚めて、ああ、ありがたいなっと思った人、います？ 私は今朝ああ雨降ってるな、とかいろいろ思いましたが、ありがたいとは思いませんでした。ああもうこんな時間だとか。そしてさらに言うとか、今日私は死ぬつもりで生きていません。明日も予定があり、明後日も予定があるし、その先も来年もずっと予定があります。死ぬません。でも、今日縁が尽きたら死にます。でも死ぬつもり

で生きてないでしょ。そういう思いで私たちは生きています。思い。この自分の思いが自分を苦しめていますよって仏教は教えてくたさいます。その思いとか心っていうことを、こう言うんです。煩惱。除夜の鐘突いたことありますか。お経には八万四千の煩惱が備わっているって書いてあります。もう数え切れないっていう意味ですね。それを凝縮していくと、百八。除夜の鐘、百八つ突きますね。これは身を煩わせるわけですね。そして心を悩ませるわけです。

以前、尊敬しているあるご住職に煩惱って泥だと思ふんですと話したことがあります。泥ってシャワーで洗い流すと取れるじゃないですか。そんなもんですかって聞いたたら、「あなたね、あなたが泥人形なんですよ」って言われました。私自身が煩惱でできています。煩惱が付いてるんじゃないって、煩惱でできていますと。だから煩惱を消すと私がいな

くなっちゃうわけです。分かりますか。だから除夜の鐘っていうのは自分をいなくさせる鐘なんですよ。自分が生きてる間は煩惱はあるでしょ。だからもうしっちゃんめっちゃかになってるわけですよ。だから仏様っていうのは、煩惱、執着から解放されるから安らかなお顔でしょ。私たちはこう、人前だとすましてるけど。あらきれいですね、カバンが。とか言くと、ちょっとおっとするじゃないですか。かばんか。あたしじゃないのって。絶対この電車に乗らなきゃいけないって思ってるのにぶしゅーっとドアが閉まるみたいな。前にいる乗らない人がゆっくり歩いて乗れなかったとか。あるでしょ。



等覚寺の本尊
阿弥陀如来のお顔

そういうふうに自分の思ってることができないと、とんでもないことになっちゃうじゃないですか。あと泣くのもそう。もう『ひよっこ』って終わっちゃいましたけど連ドラ見てましたか？ 私もう欠かさず見てて。何回か泣きましたけど。あれって今日は良い場面だから泣くぞって思わないでしょ。なんか見てたらじんわりきて、なんか恥ずかしいけど涙が出てしまいましたとか。あと笑うのもそうですね。こらえても笑っちゃうでしょ。ぷっつと噴出してご飯粒が相手の顔に付いちゃったとかないですか。今日もお齋で危ないですけど。そういうふうに身を煩わして心を悩ませるのが煩惱。それは私ですってことですよ。私が煩惱です。それで、私は煩惱ですよっていうことが仏法で教わるということなんです。そんなこと思っていないでしょ。あの人とあの方はそうかもしれないけど私は違うって、思うでしょ。そういったことを親

驚聖人が正信偈の中で何ておっしゃってるかって言う。『還来生死輪転家、決以疑情為所止』って書いてあります。これを訳すと『人々がいつまでも生と死の中でどうどうめぐりをして迷いの家に帰りついてしまうのは、きつと仏の願いを疑っているからに違いない』という意味です。浄土真宗のご本尊は阿彌陀如来ですね。お立ち姿の阿彌陀如来。南無阿彌陀仏って言っているけど、なんかあったら自分を頼りにしませんか。まだまだ私は自分でできます。きつと仏の願いを疑っている。そんなお願い言っちゃって、どうせ叶う人と叶わない人がいるんじゃないか。だって毎日お念仏してるけどいいことないし、とか。私も宝くじを買ってすぐ南無阿彌陀仏。住職になって思ったんですけど、お寺って維持するの大変なんです。何かが故障したら業務用だから金額が大きい。あっち直したら今度はこっちが壊れたって。お金って大切に

しよ。お金のことをお坊さんが言うと、またあの人お金のことばかり言ってるっていうけど本当に大変。だからこのサマージャンボで当たったら、前後賞いらないから、一等賞だけでもいいからって思うわけです。だけど当たらないですよ。ご縁があれば当たるんですけど。お念仏称えても当たらない。阿彌陀様のフルネームが南無阿彌陀仏って言うんですけど、知ってますか。釈迦牟尼仏とか不動明王とかいろいろ仏さまいます。あとお経に妙法蓮華経っていうのがありますが、これに南無を付けると南無妙法蓮華経って言うでしよ。このように普通はこの「南無」は自分のほう、人間のほうから付けて言うんです。だけど阿彌陀さんだけは「南無」も元々付いているんですよ。不思議でしょう。そもそも南無阿彌陀っていうのは、インドの言葉です。それが中国に伝わった時に音を漢字で当てたわけですが、阿彌陀は量り知れない命という

意味。これを無量寿って言いますね。南無は
帰依します、信じますってことです。な
んで阿弥陀さんの名前には南無も付いてい
るかって言うと、阿弥陀さんてああいう形をし
てますけど、本当は真実であり無限なんです。
人間はどうあがいても百三十歳ぐらいまでし
かないでしょう。有限ですよ。あと、こ
の中に今日の今日まで一度もうそをつかな
かった人は一人もいないでしょ、多分。私も
ついてますから。そうすると真実じゃないん
ですよ、不真実。有限で不真実な人は、無限
で真実なる者に触れてないとどこかにすっ
んどいてしまふ。だから不真実なものが、
どんなに正座して精神込めて言っても雑が残
るので、阿弥陀さんはそういうのもお見通し
で自分のほうに南無を付けている。だから逆
に言えば寝っころがってでもお手洗いの中で
も、この後のお齋でご飯飛ばしてるときでも
南無阿弥陀仏っていうのはもう完璧に真実の

言葉です。

あるお寺の掲示板にこんなことが書いてあ
って面白かったですね。『孫自慢、嫁の悪口同
じ口』って書いてありました。私は嫁じゃな
いのであれですけど、思い当たるじゃないで
すか。この同じ口から出るんです。南無阿弥
陀仏も。ね、だからそういうのもお見通しで
南無まで付いている。安心してどんなときで
もお称えくださいよって。

この南無阿弥陀仏は教えでもあるんです。
正信偈に『五劫思惟之摂受』って書いてあり
ますね。五劫ってとんでもなく人間が計れな
い長い時間なんですよ。百六十キロ平米の立
方体の石があったとするでしょ。それに百年
に一回天女が降りてきて、すーっと袖で石を
なでる。その摩擦で石がなくなるのが一劫。
掛ける五。だからもうあり得ない。そのぐら
い長い時間をかけて、そうだ言葉になろうっ
て言った仏さまが阿弥陀さん。等覚寺さん

のも本当にいい顔をされてます。あそこにいらっしやいますけど本当は皆さんのお口から出るお念仏が阿弥陀さん。南無阿弥陀仏って言うのと、どんな人が言ってもはたらきます。何がはたらくのか。その言葉になった仏さま、南無阿弥陀仏です。私たちはすれ違いだったり、自分勝手に解釈したりするでしょ。で、一番厄介なのが比べるってこと。いいなあの人、人は順風満帆そうとか。ああこの人も幸せそう。ああこの人よりはちょっといいかなとか。比べて生きてます。今ここに私があるっていうことが本当に尊いのに。それが見えない。もう外ばかり見ちゃう。これが厄介ですね。

蓮如上人っていう方がいます。親鸞聖人から数えて八代目の方。この方が「そのカゴを水に浸けよ」って言ってます。この仏法の水がおいしいから、カゴに入れて持って帰ろうと思ってもカゴは編んでるから水がもれちゃ

うでしょ。持って帰ってる間にもうなくなっちゃうわけですよ。だから水に浸けとけばカゴに水はいっぱいじゃないですか。というように、こういうご縁があったらどんなことでもいいです。お寺さんに通っても、ご本を読んでも。お内仏（仏壇）の前でお念仏しても、なんでもいいから常に仏法。仏法領の中にいなさいよって意味ですね。一番いいのは朝起きるでしょ。目が覚めたら寝たままでいいです。それから南無阿弥陀仏って言うてみてください。それで一日過ぎすでしょ。で、床につく時にまた南無阿弥陀仏って。そうするとお念仏の一日になります。それだけでも水にカゴを浸けてることになります。

蓮如上人



それで、そういう南無阿弥陀仏。これは阿弥陀さんからお願い、本当のお願いがはたらくんですね。浄土真宗のご本山はどこですか。京都の本願寺さん。本願寺さんの本願。これが阿弥陀さんの願いですね。実は私たちの奥底に本願が、私も皆さんも、どこの国の人も、いつの時代の人も同じ本願があるんです。だけれど私たちは煩惱でできてますから全然気が付かない。それをこのお念仏申すたびに、どうか本願に気が付いてくれと阿弥陀さんから願われるわけです。先ほど比べてしまうって言いましたね。あの人はいいなとか。もう誰とも比べる必要はないですよ。だからその本願って阿弥陀さんの本当の願い、私たちの奥底にあるこうなったらいいなってという願いは、誰とも比べる必要のない天下一品のこの私を堂々と生き活きと生きたいなという願いです。それが本願。それを教えてくれるのがお経であり、お念仏なんです。で、お念仏っていう

のは先ほども言いましたけれど阿弥陀さんがお口から出るわけです。それでその本願がはたらく。どうか誰とも比べない、比べる必要のない天下一品のあなたを堂々と生き活きと生きてちょうだいねって。毎回言うとな回はたらくわけです。

昨日うちのお寺の報恩講で他の寺の住職さんがいっぱいお見えになって、一緒にお勤めしましたけれど、そのご住職におでんを出したんですよ。お斎だね。卵って白いでしょ、煮卵にすると何日かたつと変わってくるでしょ、色が。大根もそうですね。大根もいい色になってくる。そういうように染みしてくることを薫習（くんじゅう）って言うんですね。染み込むんですよ。

お念仏を朝起きたときと夜寝るとき一回ずつでも二回でしょ。お念仏するたびに染み込んでいく。それをずーっと毎日。それで、おじいちゃんの命日だからとか、お内仏やお墓

の前で手を合わせたりする。今日も報恩講で何回でもいいです、お念仏するたびに、どうか、自分のその誰とも比べる必要のないあなたを堂々と活き活きと生きてくれて染み込んだわけ。そうするとある日、煩惱の耳栓がぼろっと取れて、本当にそれが響くときがあります。さっきも言いましたね、『ひよっこ』見て泣いちゃったとか。映画観て泣いちゃったとか。レコード聴いて涙が出たとか。そういうふうに自分の思いを越えたはたらきに響くことがあるんです。そうすると、もうどんな状況状態になっても、自分を最後まで縁が尽きて亡くなるその日まで歩むことができます。これがお念仏の救いですよ。そうじゃなかったら、ずっといいないなって比較して亡くなっていったらですよ、幽霊にでもなっ出てこないと辻褄が合わないでしょ。幽霊の髪が長いのは、過去とか後悔を表している。後ろ髪引かれるとか言うでしょ。そし

てこの下がった手、これ未来とか欲望。あれもほしいなとか。もっと長く生きたいなとか。足は無いでしょ。あれは今という所に立てない。今を見失ってる姿ですって昔あるご住職から聞きました。それ聞いたときに、ああ、じゃあ幽霊は俺自身なんだって思った。いつまでももう取り返しのないことをぐちぐち思ったりするし。明日も明後日も生きるつもりでいるからね。そして今立ってない。そういう姿が幽霊だしたら、お念仏に出遇ってですよ、教えに出遇って、自分というものが一点ものに仕上がんなかったら、なんで生まれてきたんでしょうかってことになりますね。

自分とはなんぞやっていう、それを問うのがわが人生の根本問題であるって、ずっと言われてます。この親鸞聖人のご法事にご縁としてそういうことをいただくのがこの報恩講にお参りに来た石や木じゃない人たち。枯れ

木とか岩石だっていうのはそういうことなんですよ。こういうことをいただいて、自分にはどうかな、なんで親鸞さんの法事勤めなきやいけないのかな、こういうことを伝えてくれたからでしよっていうことをいただかないとですね、なんのために生まれてきたんですかってなっちゃうでしよ。

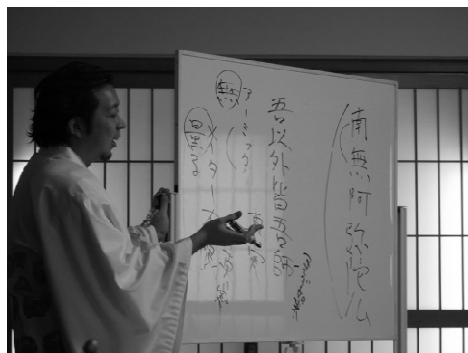
でも等覚寺さんも本当に一生懸命やられててね。先ほども受付にはお坊ちゃまもいらっしやってですね。偉い。しかもそこで正信偈を大きな声でお勤めしてましたね。六歳ですよ。私十歳で親父に騙されて京都で頭をくりくりにして得度しましたけど。それまで正信偈なんてもう知らなかった。お寺にいるのに、もうのんびりぶらぶらしてましたから。なので、すごい偉いなと思いました。それもこの環境ですよ。お父さん（住職）がですよ、何もしないで、その辺で遊び歩いてたらもう多分お坊ちゃまは正信偈を今日はお勤めして

ない。皆さんもそうでしよ。なんで今日お勤めできるかって言ったら慣れ親しんでるからでしよ。その慣れ親しんでることがとても大事なんです。真宗門徒の生活はそういうお念仏を唱えること。それから、カゴを水に浸けるんです。自分というカゴを水に、仏法の水に浸ける。これだけです。あとはもう娑婆（この世）で努力してお金もうけしようが、お友達いっぱい作ろうが、おいしいもん食べようが、いいんです。なんでもやってください。このそれぞれの生活の中で仏法を聞くのが真宗門徒の生活。この娑婆自体が修行ですね。だから絶対とは言いません、思い出した時だけ、いいですから、南無阿弥陀仏とお声に出して称えていただいて、これから歩んでいただきたいと思います。



◎新年会

毎年恒例、また新年を迎えられた慶びを楽しくみなさんと感謝する新年会を今年もお勤めすることができました。その雰囲気をお写真でご紹介させていただきます。参加されたこと無い方はぜひ次回、ご参加されてみてください。



まずはお参りと聞法(法話)



楽しいお食事とくじ引き♪
お参りの後は



参加者募集中！

○等友旅行会

まだ行き先は何も決まっていませんが、日程だけ決まりました！

日時 七月一日（日）～二日（月）
予定費用 三万円前後

○勉強会

・いのちのふれあいゼミナール

五月十九日（土）午後二時～

場所 報恩寺（地図は別紙参照）

・仏教入門＆なぜなに真宗

初回 五月十二日（日）午後二時～

毎月第二日曜日（行事の月以外）

場所 等覚寺

備忘録 ～お焼香作法～

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を額に頂くことはしません）お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままだにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

備忘録 ～法事の準備～

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

○当日必要なもの

- ・お布施
- ・お花代（本堂にお飾りする
お花代で、一万円の実費）

○ご希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影（小さいもの）

○服装は平服でも結構です。

（ご参加される方同士でお話しされてお決めください）

※お寺へお包みいただく表書きは全て「**布施**」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「**読経料**」

「**霊前**」という言葉は用いません。

備忘録 ～お葬式について～

○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆつくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。また、可能な方は**ぜひお寺でご葬儀を**。故人が生前ご縁のあった等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかなご葬儀をすることができます。

○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではありません。亡くなった時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

備忘録　　〓納骨について〓

〇納骨のみはお受けできません

一般の墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。（永代供養墓は除く）
式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分はありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

ご披露

等友へのご懇志

亀田弥様　浅井京子様　鈴木きみ子様
高橋健治様　加藤伊知郎様　鳴海恵三様
福原修一様　山本一正様　（順不同）
いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。

編集後記



こんにちは！釋翔雲です。お彼岸が過ぎてやっと春がやってきましたね。けれど僕は花粉症・・・お参りにいらっしゃる方とお話すると鼻がむずむず、法事前には点鼻薬をして鼻の通りをよくする、やることがいっぱいで春を楽しむ余裕も無いくらいです（笑）昨年お勤めした報恩講では、初めて外部の先生をお呼びしてご法話をいただきました。そこで今回はいつもと違って話し言葉のまま法話を文字に起こしてみました。が、いかがでしたでしょうか？先生の優しく楽しい語り口調が伝われば幸いです。そろそろ旅行会なのですが、今年はまだ行き先も決まっていません・・・。鋭意検討中ですので、ぜひぜひ予定だけはあけておいてくださいね！

平成三十年行事予定

五月十三日(日)

仏教入門 &
なぜなに真宗

五月十九日(土)

いのちのふれあい
ゼミナール

七月一日～二日

等友旅行会

七月十三日～十六日

お盆

七月十五日(日)

盂蘭盆会法要
初盆の方
一般の方
十時半～
十三時半～

九月二十日～二十六日

秋季彼岸

十月二十八日(日)

報恩講

◎お気軽にご参加ください。

平成三十年年回表

一周忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
二十三回忌	平成八年
二十七回忌	平成四年
三十三回忌	昭和六十一年
三十七回忌	昭和五十七年
四十三回忌	昭和五十一年
四十七回忌	昭和四十七年
五十回忌	昭和四十四年
七十回忌	昭和二十四年
百回忌	大正八年